



第64回国民体育大会バスケットボール競技会



開催場所： 佐渡市両津総合体育館
 試合区分： 成年男子 準々決勝
 開催期日： 2009年10月3日(土)
 開始時間： 10:00

GAME No. 1003A1

主審： 相原 伸康
 副審： 関 和明

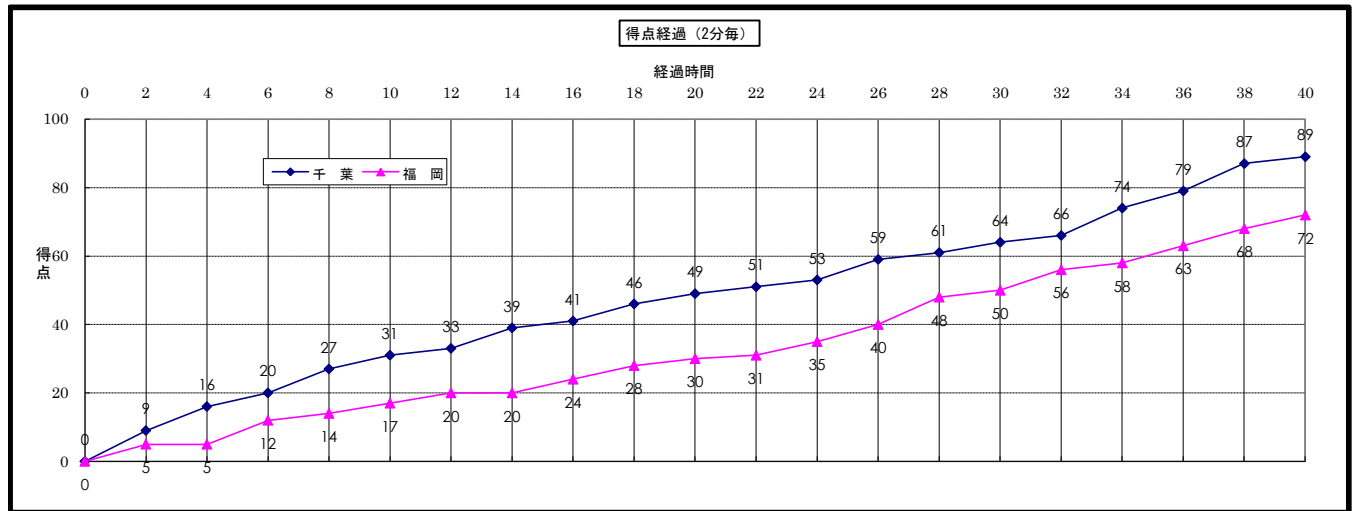
Team A 千葉	○	31 -1st- 17 18 -2nd- 13 15 -3rd- 20 25 -4th- 22	●	Team B 福岡
	89		72	

TEAM A		千葉					
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		岡村 憲司	4	0	0	4	3
5		清水 貴司	0	0	0	0	0
6	*	高橋 亮介	17	1	4	6	1
7	*	黒田 裕	26	0	12	2	2
8	*	高木 賢伸	17	2	5	1	2
9		上村 健太	4	0	2	0	0
10		梶原 剛	11	2	2	1	1
11		井上 知徳	-	-	-	-	-
12	*	戸倉 寛之	0	0	0	0	3
13		篠崎 要輔	-	-	-	-	-
14		江野沢 真	-	-	-	-	-
15	*	長谷川 武	10	2	0	4	2
Coach		砂明利 明仁	-	-	-	-	0
TOTAL			89	7	25	18	14

TEAM B		福岡					
No.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
4		竹野 修平	4	0	2	0	3
5		廣田 祥吾	0	0	0	0	0
6	*	原 一希	13	0	5	3	3
7	*	西尾 晋太郎	0	0	0	0	3
8		上野 真一郎	0	0	0	0	0
9	*	野中 俊郎	14	2	4	0	3
10		篠原 達徳	0	0	0	0	0
11		中村 洋二	9	3	0	0	2
12		江藤 淳	2	0	1	0	0
13	*	村瀬 敦希	14	2	3	2	3
14	*	薦田 拓也	13	1	5	0	3
15		毛利 孝志	3	1	0	0	0
Coach		濱 賢次郎	-	-	-	-	0
TOTAL			72	9	20	5	20

Timeout (経過時間)	1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
	18:42	-	-	-		

Timeout (経過時間)	1Q・2Q		3Q・4Q		OT1	OT2
	3:23	-	29:27	32:51		



ゲームレポート

* 得点は、(Aチームの得点) - (Bチームの得点) で表記しています。

1Q、両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタート。千葉#6高橋が3Pシュートへのファールで得たフリースローを3本とも入れて先制。福岡もすぐさま#9野中が3Pシュートを決めて同点とする。しかし、千葉は#7黒田のポストプレーを中心に得点を重ね、福岡を引き離す。第1クォーターは31-17で終了。

2Q、このクォーターも千葉は、#7黒田がゴール下での強さを発揮しシュート決めていく。一方、福岡は千葉の厳しいディフェンスの前に、ゴール前でのパス回しがうまくいかない。アウトシュートを狙うも、ボールマンへのマークが厳しく、いい体勢でシュートを打たせてもらえず、得点が伸びない。千葉が差を広げ、49-30と19点差で後半へ。

3Q、立ち上がり、双方ともミスが多く、開始2分あまり得点がない。その後、千葉は#8高木の速攻などで得点を上げる。福岡は、#11中村の3Pシュートや#13村瀬のドライブインなどで追い上げ、このクォーターでは5点リード。64-50で第3クォーター終了。

4Q、逆転を狙う福岡は、積極的にボールを奪っていくディフェンスを展開。立ち上がり、#14薦田、#4竹野の連続シュートで、64-54と10点差まで詰め寄る。これに対して千葉は、第3クォーター得点のなかった#7黒田がゴール下での頑張りを見せ、連続で得点を重ね福岡を突き放しにかかると。パスカットからの#10梶原のシュートも決まり、73-56と再び差が広がったところで福岡がタイムアウト。その後は、交互に点を取り合う試合展開となる。積極的なディフェンスを挑んだ福岡はファールがかさみ、残り6分でチームファール4個となる。千葉は相手ファールでもらったフリースローを確実に決め、福岡の追い上げを許さない。常に主導権を握って試合を進めた千葉が、89-72で福岡を退け準決勝に進出。

記載責任者 庄山 忠彦 (所属) 新潟県バスケットボール協会